令和４年度　西都市三財小中学校　学校評価書

本年度の学校経営ビジョン：	三財スタイル（子どものために・みんなで・自分の成長のために）を基本に、「個」を尊重し「自律」を基に「自立」を促す教育活動を創造・実践し、子どもの姿を通して、地域から信頼される学校を目指す。

【評価】４：そう思う　　３：ややそう思う　　２：あまりそう思わない　　１：思わない

中期経	本年度の重点目標			評価項目	４と３の割合（％） 児童	生徒	保護者	教師	総合	考察及び改善策	学校関係者評価委員意見 評価	○成果　●課題
黒土大地のもと、三つの財（たから）をもち、地域に貢献する児童生徒の育成	（1）学びの財	見える学力の向上	1	板書の工夫、めあて、まとめの明確化、発問、指示の工夫、ＩＣＴの活用など分かりやすい授業に取り組んでいるか。	96	94	88	100	83	・今年度より本格的に学校でも家庭でもタブレット活用が始まり、児童生徒も意欲をもって学習活動に取り組んでいる。また、職員も積極的にICT研修を受け、デジタルのよさとアナログのよさを使い分けながら授業の工夫をしている。 ・3の読書活動の減少の一つの要因として、Youtubeや映像など情報が手軽で便利に手に入り身近にあふれていることがあげられる。今後は、家庭と連携しながらメディアにない読書の良さを発信していく必要がある。 ・4については、児童生徒の意識は9割には満たないが、さいと学で探究学習をしたり、中学部教員が小学生に進路について講話をしたりするなど将来が見通せるような工夫をしている。	3.4	○タブレットの学習は、アンケートなどを行いながら浸透してきてる。最初はトラブル等も多いだろうが、社会全体の流れでもあるので、今後の教育のためにも課題を解決しながら進めていって欲しい。 ○職場体験は、三財の地域を活かした農業体験もなされていて面白いと感じた。 ○3ステージに分けることで、子供たちの意欲や緊張感が生まれよく勉強に取り組んでいるように見えた。 ●教師は全力投球しているのに、生徒の意欲が見られない。将来についても「わからない」と答える子が多いのは課題である。 ●読書を通して想像力を培い、「個」に集中して自己を見つめる機会が持てるように、図書室等で1時間程度時間を設けてはどうか。 ●学校でも家庭でも面白い本の紹介など実施してもらえるとありがたい
			2	基礎学力の定着を図るための指導を行っているか。	96	87	91	95				
			3	読書に親しむための指導を行っているか。	71	32	64	53				
			4	将来の夢や希望をもてるような指導を行っているか。	89	80	91	100				
	（2）心の財	自己肯定感と豊かな人間性の育成	5	問題行動（いじめ）等について報告・連絡・相談を確実に行い、迅速に対応するよう努めているか。	96	98	97	100	96	・5については、毎月のアンケートで気になる児童生徒に迅速に対応することができ、教員も常に「何か困っていないか」という視点で指導している。教育相談期間には、一人一人と話す機会をつくることができ、アンケートに出てこなかった児童生徒の相談にも、対応することができた。しかし、評価1、2を選んでいる児童生徒については、引き続き親身になって対応し、不登校傾向の児童生徒についても、関係機関と連携し組織で動いていく必要がある。 ・7については、委員会活動を通じて、あいさつや整理整頓を意識できるような取組をすることができた。今後は、継続してできるような工夫が必要である。 ・8については、学校では教育活動全体や学級通信を通じ、各家庭でも周りに感謝する気持ちをもつ育て方の理解を求めた。	3.4	○児童生徒から評価が高いことは素晴らしい。 ○小中の仲の良さが会話から伝わり、お互いに思いやる心が育っていると感じた。 ○子供たちの仲の良さや上級生下級生の協調性、あいさつなど非常に指導ができている。 ●仲良くなる反面、言葉遣い、冗談がきつくなりすぎて相手の気持ちに寄り添えてない面は気になる。 ●学校に関わってみて、初めて知った問題点も多々あり、報告や相談等をしたが問題解決にいたらず残念なこともあった。 ●子どもの問題行動の対応も大切であるが、教員も児童生徒をよく理解して、メンタルを傷つけない配慮も望む。
			6	あたりまえのこと３カ条の指導を日常的に行っているか。	96	100	72	95				
			7	学校のきまりについての指導を徹底するとともに、日常指導の充実を図っているか。	97	100	97	100				
			8	全てのことに感謝の気持ちをもたせる指導を行っているか。	96	100	91	100				
	（3）身体の財	健康・安全意識と体力の向上	9	自分や周りの命の大切さを考えさせる指導を行っているか。	99	88	94	100	93	・9については、連休や長期の休みの前に交通安全や命に関わる全体指導を行ったり、全国で児童生徒に関する事件があったときにも、適宜全体で指導を行ったりしたので、大きな事故につながらなかった。 ・10については、養護教諭と連携して学級通信や保健便りで呼びかけを行った。しかし、メディアのトラブルは年々増加傾向にあり、NTTにメディアについての講話をお願いした。今後は保護者と一緒に話を聞く機会があると、共通理解のもと指導が徹底できるのではないかと考える。 ・11については、新体力テストを利用し、生徒が自覚をもって体力向上に取り組んでいくよう指導を行う。	3.2	○大きな事故もなく良かった。 ○コロナ禍で今年度も難しい年になったが、その中でも色々な行事ができたのは、子供たちと先生方の健康に対する意識の高さの現れだと思う。 ○コロナ禍で子供たちの訛った身体のためにも、マラソン大会などの体力向上の取組はありがたいと感じている。西都市はたくさんの競技のキャンプで賑わうので、体育の授業や少年団、部活動でモチベーション向上に繋がるのではと感じている。 ●登校班で、バラバラで登校していたり、中学校の校舎を通ったりして小学校に行く等の危ない様子が見られ心配している。これが当たり前になっているといけないので、地域と学校と一体で指導していかないといけないのではないか。 ●不登校の子の不満が理解できない。家庭・学校・社会のバランスある指導が見えない。 ●ICTの活用推進の一方で、視力低下など身体に与える影響も対応していって欲しい。
			10	ＳＳカード記入を定期的に行わせ、基本的な生活習慣の実態把握と保護者への啓発に努めているか。	94	94	94	100				
			11	体力向上プランに基づいた授業の充実と体力向上の活動の充実に努めているか。	92	79	83	95				
	教務・管理部	信頼される学校づくり	12	一貫校のメリットを生かした指導を行っているか。	93	86	81	100	82	・12について、小学生が中学生への憧れをもつことができたり、中学生の小さい子への思いやりが育まれたりする場面が見られた。コロナで多少機会は減ったが、縦割り清掃や委員会活動、運動会のような学校行事も小中学校合同で開催できた。日ごろから幅広い年齢層での交流を行うことができている。 ・13について、児童生徒が参加できるような行事や活動は増えたが、感染状況や天候に左右されることも多かった。また、児童生徒の週末の過ごし方も少しずつ変化しており、家庭での用事や習い事なども参加減少の要因と思われる。 ・14について、学校はHPで日々の学習活動の様子や宿泊を伴う学習についてよく発信できた。内容が重ならないように、教師も輪番で更新を行った。修学旅行期間は保護者にも安心メールで更新の連絡をしていたのでよく閲覧されていた。今後は児童生徒にも、周知されるよう呼びかけていきたい。	3.4	○へそ祭りでは、礼儀良く、一生懸命な中学生の姿に感動した。 ○子供たちも先生方も、積極的に地域の行事に参加してくださり感謝している。 ○コロナ禍でできる範囲での活動が行われていることは認められる。 ●HP更新は大変だとは思うが、子供たちの様子がよく分かる手段なので、些細なことでもどんどん更新してもらえるとありがたい。 ●今年度のへそ祭りでは、生徒と先生に負担をかけたのではという課題があったので、来年度は密に連絡を取り合っていけたらよい。 ●HP更新を安心メール等で周知させるといいのではないか。 ●協力は惜しまないので、家族や友達、三財を愛する人に育って欲しい。
			13	児童が、地域の行事や活動に積極的に参加したいと思うような指導を行っているか。	75	72	80	96				
			14	通信やホームページを通して積極的に情報発信をしているか。	49	36	91	95				
			15	家庭・地域の人材を活用した取組みを積極的に行っているか。			88	100				

※　　８割を超えている項目